山とスポーツクライミング情報誌

登山月報

JMSCA 登山月報　第663号　令和６年６月15日発行

飯豊連峰・頼母木山から「残雪の杁差岳（えぶりさしだけ）」
写真撮影　新潟県山岳協会 自然保護委員会委員（新潟山岳会理事）鈴木 勝利

第12回リードユース日本選手権いわて盛岡大会（LYC2024）…… 2
第10回ボルダーユース日本選手権いわて盛岡大会（BYC2024）開催レポート
第16回 Winter Climbers Meeting（WCM16）報告…… 4
Enjoy Climbing …… 6
愛知県山岳・SC連盟自然保護委員会のSDGsな活動 …… 7
寄贈図書 …… 7
IFSC General Assembly 2024 in Santiago/Chilly …… 8
JMSCA、表紙のことば ……11

No.663

第12回リードユース日本選手権いわて盛岡大会（LYC2024）
第10回ボルダーユース日本選手権いわて盛岡大会（BYC2024）

開催レポート

大会副実行委員長
藤枝隆介

各ユース世代の日本一を決めるユース日本選手権が岩手県盛岡市の「ONODERASIGN Climbing Base」で開催されました。

ここ数年は南砺及び倉吉での開催が続いていた両大会ですが、今年は場所を替えて２週続けての開催となりました。５月の盛岡ということで寒さを含めた天候が不安視されましたが、両大会ともに初夏のような気候に恵まれる日が多い中での大会となりました。

参加選手数はLYC2024が247名、BYC2024が294名とどちらも過去最大規模となっており、スポーツクライミング競技の若い世代への浸透が引き続き続いることを実感しつつも、協会として今後もさらに盛り上げていく必要性を改めて感じることができました。

【LYC2024開催概要】

大会名	第12回リードユース日本選手権 いわて盛岡大会（LYC2024）
期日	男女予選（１本目）2024年５月４日（祝・土） 男女予選（２本目）2024年５月５日（日） 男女決勝 2024年５月６日（祝・月）
会場	ONODERASIGN Climbing Base
来場者数	約2400名（３日間合計、選手・関係者含む）

【LYC2024競技】

ONODERASIGN Climbing Baseのリード壁は高さはそこまでないものの、他には類をみない強い傾斜が特徴的な競技壁となります。選手たちにとっては持久力はもちろんのことその傾斜に負けないパワーや体幹などが必要となり、一手一手気を抜けない競技展開が見どころとなります。

●男　子

ユースBは同じ神奈川の予選を首位通過した濱田琉誠と２位通過の仲田和樹の一騎打ちとなりました。先にトライをした仲田選手が終了点タッチとプレッシャーを掛ける中、濱田選手は最終局面に入るスローパーの続くエリアでフォールし仲田選手が接戦をものにした。

ユースAは長森晴と藏敷慎人が共に予選を一位通過する。決勝では他の多くの選手が苦戦した上部のスイングムーブをリスクの少ない独自のムーブで対処した長森選手が昨年のLYCに続く優勝を決めた。

ジュニアは決勝で小俣史温、和田樹怜、杉本侑翼の３選手が同高度となる接戦となったが、予選課題で唯一の完登をした小俣選手がリードジャパンカップ２連覇の貫禄をみせる登りでLYCでも連覇を果たした。

■LYC2024 男子リザルト

順位	ジュニア		ユースA		ユースB	
1	小俣 史温	おまた しおん	長森 晴	ながもり はれる	仲田 和樹	なかた かずき
2	和田 樹怜	わだ きさと	藏敷 慎人	くらしき まなと	濱田 琉誠	はまだ りゅうせい
3	杉本 侑翼	すぎもと ゆうすけ	船木 陽	ふなき はる	宮川 幸大	みやがわ こうた

■LYC2024 女子リザルト

順位	ジュニア		ユースA		ユースB	
1	竹内 亜衣	たけうち あい	小田 菜摘	おだ なつみ	林 有沙	はやし ありさ
2	小倉 紗奈	おぐら さな	麦島 心花	むぎしま こはな	徳嵩 悠乃	とくたけ ゆの
3	永嶋 美智華	ながしま みちか	藤村 侃奈	ふじむら かんな	中村 まりん	なかむら まりん

※PHOTO:JMSCA/ アフロ

●女　子

予選から混戦模様となったユースBは決勝でも多くの選手が粘りをみせ、一手一手が勝負を分ける展開となった。そんな中優勝を決めたのは今大会北陸勢初優勝となる林有沙選手。２位には長野の徳嵩悠乃選手となった。

実力者の揃うユースAも接戦となり最上部の保持パートでの確実性が勝敗を分けた。予選２位で世界ユースでも表彰台経験のある麦島心花が一歩抜け出し首位に立つが、今年のリードジャパンカップで３位と飛躍をみせる小田菜摘が同高度に達し、予選でのカウントバックによりLYC ４度目の優勝を決めた。

ジュニアは竹内亜衣、小倉紗奈、永嶋美智華と実績豊富な３選手の争い。こちらも接戦となる中で一歩抜け出したのは、リード、ボルダー、スピードと３種目で活躍する竹内選手。リード種目では自身初となる優勝となった。

【BYC2024開催概要】

大会名	第10回ボルダーユース日本選手権 いわて盛岡大会（BYC2024）
期日	男女予選 2024年５月11日（土） 男女決勝 2024年５月12日（日）
会場	ONODERASIGN Climbing Base
来場者数	約1600名（２日間合計、選手・関係者含む）

【BYC2024競技】

ボルダー壁は日本国内の常設競技壁のなかでもトップクラスのスケールとなります。また、BYCでは決勝は

男女各３課題となるためボルダージャパンカップよりも競技壁を大きく使った課題を作成することができ、内容は勿論のこと見栄え的にも内容の濃い課題での決勝となりました。

●男　子

ユースＢはLYCと同じく濱田琉誠と仲田和樹の争いとなった。両者譲らない展開が続く中、第２課題までは仲田選手がトライ数で上回るが、最終課題で濱田選手が一撃で完登し前週の雪辱を果たした。

ユースＡは２課題目まで長森晴が抜群の安定感を見せる。多くの選手が苦戦する最終課題で地元岩手の本明佳が自分の登りを発揮し完登を決め会場が大歓声に包まれ大逆転での優勝を決めた。

ジュニア決勝は完登数の少ない緊張感のある展開となった。予選５位通過の和田樹怜が第１課題で唯一の完登を決めリードし、予選２位の田宮瑛人と松岡玲央が追いかけたが、和田選手が苦しみながらも最終課題を完登し、自身初のBYCでの表彰台を優勝で飾った。

●女　子

ユースＢは予選首位通過の村上和香をはじめ、西川美愛、山﨑彩葉の三つ巴の戦いとなった。２課題目までトライ数でリードした山﨑選手が最終課題も一撃で決め初優勝を決めた。

ユースＡは大会３連覇を狙う村越佳穂を中心とした戦い。パワフルな大きなピンチが横に並ぶ課題に多くの選手が苦戦する中、伊藤悠が危なげない登りで唯一の完登。LYCで優勝した小田菜摘も最終課題で追い上げるが、ZONE差で伊藤選手が逃げ切った。

ジュニアは第１課題を全選手が完登するも以降はZONEの獲得も困難な課題が続いた。強傾斜にパワフルなムーブが続く第２課題は永嶋美智華と小倉紗奈が完登一歩手前まで進む。

最終第３課題は壁を大きく使ったコーディネーション課題。竹内亜衣と小倉選手が素晴らしい動きでZONEを獲得するも完登には一歩及ばず。優勝した小倉選手は昨年に続く２連覇となった。

■BYC2024 男子リザルト

順位	ジュニア		ユースA		ユースB	
1	和田 樹怜	わだ きさと	本明 佳	ほんみょう けい	濱田 琉誠	はまだ りゅうせい
2	田宮 瑛人	たみや えいと	長森 晴	ながもり はれる	仲田 和樹	なかた かずき
3	松岡 玲央	まつおか れお	栗田 瑛真	くりた えま	齋木 猛斗	さいき たけと

■BYC2024 女子リザルト

順位	ジュニア		ユースA		ユースB	
1	小倉 紗奈	おぐら さな	伊藤 悠	いとう はるか	山﨑 彩葉	やまざき いろは
2	竹内 亜衣	たけうち あい	小田 菜摘	おだ なつみ	西川 美愛	にしかわ みあ
3	永嶋 美智華	ながしま みちか	村越 佳歩	むらこし かほ	村上 和香	むらかみ わか

※PHOTO: Miwako Kubota/JMSCA/アフロ

【大会運営（共通）】

近年、競技会を開催できる要件を満たした施設が増え各地より公式大会誘致の問い合わせが多くなっています。大会運営のし易さという面では「同一大会＝同一会場」という方式が秀でているのは明確ですが、ジャパンカップやユース選手権など８つの公式大会では施設数とのバランスがとれておらず、年度によって会場を変えていく方針へと切り替えていく必要に迫られていました。また、今年度の競技会運営の最大のテーマである「最小コストで最大効果の上げられる競技会」という目的を達成するため、競技委員会では２大会を連続で開催する決断をしました。決断が遅れたことにより岩手県や岩手山岳・スポーツクライミング協会の皆様はもちろんのこと、富山県や愛媛県の関係者の方々には大変ご迷惑をおかけしました。一方で「最小コストで最大効果の上げられる競技会」という意味ではある程度の成果を達成することができたのではないかと思っています。

今後は全国各地の岳連、行政との早い段階での開催地及び大会スケジュールの調整を進め、現状より一段階進んだ協力体制を築きあげながら公式大会を実施していきたいと考えています。

実際の運営という面ではBYC特有の予選コンテスト方式を屋外で開催するのが初めてであったため、直前の天気予報でレイアウトを変更できるよう複数のプランを用意することとしました。今回「土砂降りバージョンプラン」の出番はありませんでしたが、「観客から競技はほぼ見えない」、「順番待ちの選手のスムーズな誘導が難しい」、「課題によっては待機選手からも競技が見えない」など不安要素を多数抱えたプランだったため天候に救われた大会となりました。

今大会のようにその競技会場で実施したことのない大会を開催することは多くのリスクを抱えての開催となりますが、2016年のいわて国体をはじめ多くの大会経験のある岩手県協会の方々をはじめとした多くの関係者、スタッフのおかげで無事開催することができました。また、ユースの大会では毎回感じることですが、今回も選手はもちろんのこと保護者や関係者一人一人の熱い気持ちと大会の盛り上がりに感動しました。改めて感謝申し上げます。

第16回 Winter Climbers Meeting(WCM16) 報告

第16回 Winter Climbers Meeting（WCM16）を1／27（土）～28（日）栃木県日光市足尾町で開催した。

ＷＣＭはアルパインクライマー同士の交流とトラディショナルな残置物を一切使わない冬季登攀の実践を目的とするイベントで、元々は2007年に馬目弘仁と横山勝丘がＢＭＣ（イギリス山岳評議会）主催のWinter Climbers Meetingに参加したことを発端に日本でも年1回開催されるようになった。

ＷＣＭ16の参加者はクライマー38名／サポート13名（クライマー兼サポート2名含む）、計49名。北は北海道から、西は兵庫県まで、全国からウインタークライマーが集った。

会場は松木沢の岩場。天候に左右されずに登れ、安全管理も北アの本格山岳に比べると容易なゲレンデの利を活かし、参加者の裾野を広げた結果、過去最大規模での開催となった。

松木沢の岩場には既成ルートも存在するが、自由なライン取りと発達した節理を活かしたナチュラルプロテクションによるクリーンな登攀が可能で第3回／第4回のＷＣＭが開催された実績がある。当時は馬目弘仁さん、佐藤裕介さんをはじめとするトップクライマーが中心となり開催された。第16回となった今回は地元栃木と関東有志が中心となって開催の準備を進めた。前回の栃木開催から10年以上が経過し、手探り状態だったが、ここ数年のＷＣＭで世話人を続けられている馬目弘仁さん／和田一真さんにアドバイスをいただきながら進めることで何とか大きなミスや遅れなく当日に間に合わせることができた。

当日は朝6：30に銅親水公園に集合し、参加受付、無線・携帯トイレなどの必須携行品と協賛品の配布、7：00よりブリーフィング、集合写真の撮影後、参加者は各自の割り当てルートに向けて出発。サポートスタッフは懇親会用ベース設営班と遭難対策班に分かれて活動した。残念ながらＷＣＭ直前で故障や体調不良に見舞われてしまった参加者もサポートに加わっていただき人手不足だったので大変助かった。

松木沢の岩場は大まかに①アプローチが近く、ピッチ毎に安定したテラスで区切られた初心者向けのジャンダルム ②平均的に傾斜が強くクライミングも難しい幕岩 ③メジャーな既成ルートが集中するウメコバ沢中央岩峰 ④チャンピオンの頭に通じる長大なウメコバ尾根・夏小屋沢周辺のリッジラインという区分けになる。これらを14パーティ／38名が登攀した。

登攀はジャンダルム・幕岩・ウメコバ尾根・ウメコバ沢と、概ねアプローチの良い順に始まり、各パーティ順調にロープを伸ばした。ほとんどのパーティがトラブルなく下山開始となる16：00までに完登。ＷＣＭ常連の参加者は流石の実力。そして初参加のメンバーも初めてザイルを組むパートナーにモチベーション高く、いつも以上の実力を発揮したのだろう。今回のハイライトというべき登攀はチャンピオン岩稜に隣接する、中央岩峰が槍状に尖って見えるリッジラインで成田啓／瀧澤岳パーティによって行われた。

そのリッジは長さと最終的にチャンピオンの頭のフェースに合流するという困難さから、時間切れ途中敗退を想定したルートだった。彼らは事前に得た情報から、海外遠征で多用しているマイクロトラクションを使った同時登攀で、ほぼ立ち止まってビレイすることなく、この長大な尾根を駆け抜け、完登した。曰く「アルパインマラソン」とのこと。微妙な箇所もあっただろうに、こういう若者が新しい時代を切り拓いてい

No.	エリア	ルート	氏名
1	ジャンダルム	中央ルンゼルート	L:石原　寛之 鈴木　大地
2	幕岩	右壁ルート	L:中川凌佑 田島　圭悟 鈴木　雄大
3		同志会右ルート	L:望月　慎一郎 相原　将人 寺田　サキ
4		幕岩同志会ルート	L:増田　文弥 永山　虎之介 吉武　愛佳
5		右壁ワイドクラック	L:三瓶　健 西村 英樹
6	夏小屋沢	夏小屋沢右稜	L:堀江　誠克 今北　光哉 小野寺　洋佑
7	ウメコバ尾根	末端壁中央ルンゼ	L:馬目 弘仁 三井　愛 村岡　聖治
8		末端壁4-2	L:和田 一真 桑原　郁美 平井　大介
9		槍状岩稜	L:成田　啓 瀧澤　岳
10		チャンピオン岩稜	L:金子　貴裕 須田　誠 海保　穏宏
11		モスラ状岩稜	L:和田　淳二 稲田 千秋 久野　光輝
12	ウメコバ沢中央岩峰	大凹角	L:上野はるか 谷嶋　真一 高橋　敬太郎
13		直上ルート	L:加々見 太地 東山　高志 伊佐見　奈穂子
14		白峰会ルート	L:稲田 真 西村 雅大 三宅 弘人

くのだろうと驚きつつ感心した。

ウメコバ尾根のようなロングルートでは、登ったのと同じピッチ分だけ懸垂下降をこなさないと下山できないこともあり、懇親会会場のベースに全員が戻ったのは21時を過ぎた頃となった。参加者の最後の一人が下山するまで無線を持ち現場に留まってくれた遭難対策リーダーの佐々木さんは随分と寒い思いをしたのではなかろうか。

懇親会では茅ヶ崎山岳会の小林／吉川ペアが50人分（！）の温かい食事を準備してくれており、先に帰幕した参加者から順に思い思いにグループを作って歓談していた。

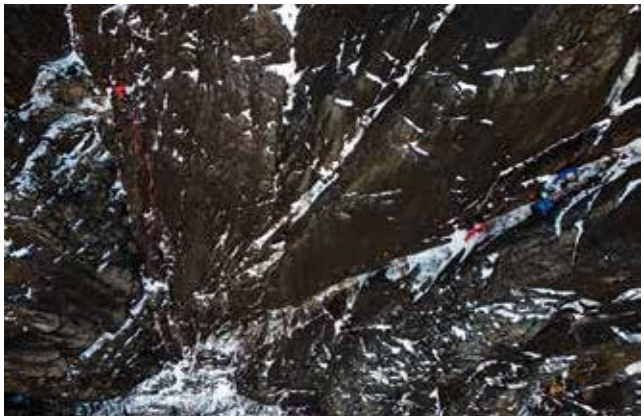
少し予定時間は過ぎたが、21：30頃、参加者全員が揃ったところでスライドショーをスタート。国内外5件の遠征報告・エリア紹介が行われた。最近時、山岳雑誌の紙面を賑わせる鈴木雄大さん／成田啓さんをはじめ、金子さんのヒマラヤキャンプ2023、永山さんのカナダ／クライミング留学の報告、国内ローカル枠で福島の堀江誠克さんによる磐梯山周辺のクライミングエリアの紹介が行われた。いずれの報告も興味深く質疑を交えて終了した時には24：00を回っていたが、その後も懇親会は続き、年長者から順に就寝したが、元気な20代参加者による交流は夜明けまで続いた。2日目はその場で知り合った者同士で自由に組んで登ってもらう形式をとった。深夜まで続いた懇親会の疲れもあったことは間違いないが、皆ベースで朝食を食べたあと元気に登りに出掛けた。

ＷＣＭは第16回目を迎えた。かつて松木沢の岩場で行われた第３回／第４回ＷＣＭの記録を読み、いつか再び地元の岩場で開催したいという願いがようやく今年実現した形だ。こうしてやってみてＷＣＭはアルパインクライマーに資する活動であり続けていると改めて感じた。

今回は参加人数が多かったことで、朝のブリーフィングから、夜のスライドショーまで常に時間が押しており、全体でお互いの自己紹介をしたり、例年世話役をやられている馬目さん／和田さんに一言いただく間もなくイベントを終えてしまった。遠方からの移動を考慮し、無理のない集合時間とした上で、ロープを結んで充実したクライミングをしてもらうことを優先した結果ではあるが、その点については課題を残した、今後改善していきたい。

最後に開催に際して、物心双方で協賛・サポートいただいた皆様に感謝を申し上げると共に、この活動が今後も有意義なものとして継続していくことを祈念して締めの挨拶とさせていただきます。

（山岳同人 野武士／ TMGC WCM16世話人　大末篤司）



幕岩を登る、同志会ルート / 増田パーティ、同志会右 / 望月パーティ、右壁ルート / 中川パーティ
今回は小池美咲さんのドローンで臨場感のある撮影ができた

・運営 / サポートスタッフならびに、協賛団体・企業の皆様に深く感謝申し上げます。
佐々木穂高（世話人 / 遭難対策部長）
小林大善（ベース運営リーダー / 調理スタッフ / 茅ヶ崎サポートメンバー・資材提供とりまとめ）
小池美咲（カメラマン / ドローン撮影 / 映像編集 / ロクスノ渉外）
吉川玉緒（調理スタッフ / 献立立案）
金子貴裕（松木沢周辺情報の調査・整理 / 遭難対策部員）
西川真由美（各パーティ通信記録係 / ウメコバ沢出合通信中継係）
瀬沼勉（遭難対策副部長）
小野寺洋祐（受付 / 遭難対策部員）
山宮秀樹（遭難対策部員）
上野はるか（遭難対策部員）
鈴木宏明（ベース設営 / ベーススタッフ）
王鞍彗介（ベース設営）　＜敬称略＞

〈WCM16関連情報〉

・サポート／小池美咲さんWCM16ダイジェスト動画
https://www.youtube.com/watch?v=K2Js9QBSs9A
・国際山岳医／稲田夫妻によるＷＣＭ16参加レポート
https://www.youtube.com/watch?v=-WtNEfoFEQM
・山と渓谷社 ROCK & SNOW 103 spring issue mar.2024

Enjoy Climbing

佐藤　裕介

2022ユタツアー後編（HIHO CARAK）

今回はユタで人知れず眠っていた素晴らしいクラックを登った話。やはり未知のラインに出会いそれを登るのはスケールの大小に関わらず心ときめく物です。

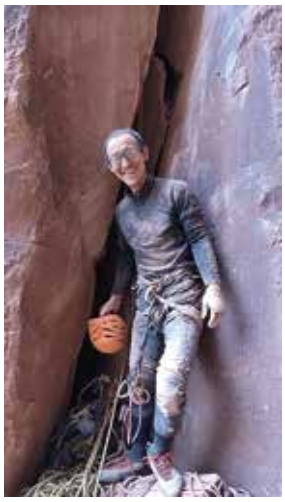
前日に浮石を落としながら下降したクラックを登って、大チムニーに入っていくとチムニー内の左側面に綺麗に続くクラックを見つけた。急遽、迫力満点のこのクラックを登ることに。リード順の坂本が行くが、３ｍ登って５番を決めたら６番も効かないワイドとなりランナウトを強いられていた。落ちれば確実にグランドフォールしそうで、ビレイヤ―は緊張しながら見守った。行きつ戻りつを繰り返しながら長時間粘ってトライしていたが、傾斜の強い部分が越えられずにクライムダウン。無事取り付きに戻ってきた坂本とバトンタッチした。

ワイドクラックは好きな部類である。坂本のクライミングを見て恐ろしそうだとは感じたが、私の番だ。一先ず坂本の敗退ポイントを越えることを最優先として身軽にスタート。10ｍほどはプロテクションを取らずに敗退ポイントを越えてやっと６番を決めてから、バックロープでギアを引き上げた。一応フリークライミングだから膝をスタックさせ６番にはテンションをかけずに引き上げてからクライミング再開。傾斜のあるクラックは徐々に縮まりシンハンド～フィンガーになってきて苦しい。前腕がパンプに襲われるが、なんとか堪えてロープを伸ばす。40ｍほどの地点からクラックが閉じランナウトしつつ最後はフェースクライミングでテラスに這い上がることができた。しばらく全身の疲労と充実感に包まれて呆然としてしまった。グランドアップ初登。今まで私が体験した中で最高のオンサイトの一つだ。第３バットレスは壁自体、中々目にすることがない岩場である。更に、このクラックは大チムニーの側面に隠れるようにして存在するため取り付きからは見つけることが出来ない。隠された宝のようなクラックだったことから「HIHO CARAK」と名付ける。秘宝を見つけ出し、美しい宝に触れられた幸運に感謝しながら下降した。

取り付きに戻ると、更に右のマルチラインを見上げる。全体傾斜がこちらの方があり中間部からは明らかに被ったワイドも見えた。明日はこのラインにトライしてみよう。今夜も気分よく焚火を楽しめそうだ。

＊

今日取り付くこのマルチピッチは、今までのラインより傾斜があり中々手強そうである。先ずは、坂本がシンハンドクラックから始まる１Ｐ目に取り付いた。かなり悪いサイズに加えクラック表面の砂々度が酷くテンション。掃除をしないとフリーでは登れそうになく一先ずエイドを交えながらロープを伸ばすことに。２Ｐ目は庇的なチムニーから豪快に空間に飛び出す内容で面白い



クライムダウンしてきた坂本

HIHO CARAK 5.12＋ 55m

5.10。岩角では下降も出来ない形状だったので、ビレイ点＆下降点としてボルトを設置した。３Ｐ目はフェースをトラバースする部分も出てきてＮＰ＆ボルトのピッチとなる。このピッチもかなり厳しい内容で我々の実力では十分に掃除してからでないとフリーは難しいだろう。ハングに走るワイド目指して、エイドで露出感満点の壁をトラバースしていく。終了点から見上げるワイドはハングしていて、難しそうだ。ここまで３ピッチ中２ピッチをエイドで登って来ていたがなんとか今日中にトップアウトはしたいなと考えていて夕暮れ迫るなかヘッドライトを点けてスタートした。５番サイズの完全にハングったワイド。これは、２週間前にトライしたセンチュリークラックで使用したインバージョンスタイルで行けるのではと、両足をルーフ状のワイドクラックに差し込みコウモリの様に逆さになって進んだが、敢え無くテンション。どうも、ヘッドライトを付けながら突破するような難易度ではなさそうだ。エイドを交えてなんとかクライムダウンして敗退した。雨も降り出した中懸垂下降し、車を停めているキャンプ地まで足早に（最後は本当に走って）逃げ帰った。大雨でダートがぬかるんでしまったら、この谷から脱出できなくなる可能性が大きいのだ。キャンプ地に戻ってからすぐに荷をまとめて大慌てで車を走らせた。

大雨＆雪を町でやり過ごし再び第３バットレスに戻ってこのマルチをトライした。しかし、短い期間では登り切れずに５～６ピッチとなりそうなこのマルチは未完成のままツアーは終了となってしまった。

2024年の秋に再度この谷に戻ってくる予定だ。この未完成マルチと周辺に残るクラック群を登る開拓ツアーはまだまだ続きそうだ。

愛知県山岳･SC連盟自然保護委員会のSDGsな活動

自然保護委員会では、令和４年３月から「愛知県独自のSDGsの取り組みについて」意見交換を重ね、令和５年６月の話し合いで「登山道整備」の活動方針を次のようにまとめた。

「愛知の130山で紹介されている登山対象の山を愛知の宝物ととらえ、体に触れる程度の枝に限って切り取る活動を、冬場のトレーニングを兼ね、持続可能な活動として、登山道の維持・整備に取り組む。」

令和５年11月から令和６年４月までの６ヶ月間に、活動方針に従って実践活動を実施した。活動日数は15日間、登った山の数は43山、参加者の延べ人数は142名を数えた。この活動はさらに令和６年度にも引き継ぎ、11月から翌年の４月までの予定で、既に年間行事計画にも組み込んでいる。毎年30山から40山のペースで取り組みを進めれば、愛知の130山を４年で一回りすることになる。特定のメンバーや同じ山岳会だけの活動ではなく、賛同者の数が増え、各山岳会が冬のトレーニングを兼ねた山行を実施するようになれば、登山道の維持・整備にもなり、それが持続可能な活動として定着していくことを願っている。勿論、登山道の整備の際には地権者の方や市町村への連絡・許可をとった上で活動を進めていきたいと考えています。

（話し合いの議事録や活動した山の名前・特徴などは、愛知山岳・ＳＣ連盟のホームページに詳しく紹介されていますのでご覧ください。）

話合いや実践活動に参加した人たちの感想や意見が次のように寄せられた。素晴らしい取り組みなので時間があれば参加したい。愛知の130山の中に、時が経てば自然と忘れられていく山ができるのは寂しい。今までに、行きづらく、登れなかった山も幾つかあった。この活動で、全山登頂を果たしたい。愛知の里山の魅力に触れ、山の楽しみを見つけることが、登山道整備の中で味わえるのは素晴らしい。私たちは自然保護指導員なので「自然がどう変わったのか、なぜそうなったのかを知ることも大切」山をよく知っている人、その地域をよく知っている人を訪ね、愛知の山が歴史的に変化した事、昔登った山と現在の山がどう変わったか？ を含め、愛知の130山で勉強したい。

（愛知県山岳・ＳＣ連盟　自然保護委員長　栗木洋明）

☆登山道整備活動に関してのお願い☆

「全ての山には所有者・管理者がいることを再認識され、登山道の整備や修復作業の際には必ず事前の連絡や許可をとった上での活動をお願いします。地権者が不明になっている山林も増えています。現在、登山者の安全確保や登山道整備・管理の明確化を図るため「登山道法」の制定が進められていますが、当面は所有者・管理者と連絡を取りながら、可能な範囲で取り組んで頂きたいと思います。今後ともSDGｓな活動、よろしくお願い致します!!」

寄贈図書

福岡山の會	「福岡山の会創立90周年記念誌」	会報
愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第452号	会報
(株) 日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2432号、第2433号、第2434号	新聞
日本勤労者山岳連盟	「登山時報」春号 (No.583)	会報
兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第683号	会報
(公財) 健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No. 553	会報
(特非) 日本トレーニング指導者協会	「JATI」 第100号	会報
Corean Alpine Club	「산 (山)」2024年４月号 Vol. 284号	会報
(株) ネイチュアエンタープライズ	「岳人」 2024June　No.924	情報誌
(公財) 日本スポーツ協会	「Sport Japan」vol.73	情報誌
(株) 山と渓谷社	「山と渓谷」 2024 No.1078 6	情報誌
(公社) 日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.411	会報
東京野歩路会	「山嶺」Vol.101 No.1131	会報
おいらく山岳会	「山行手帖」 No.774.'24, 6	会報
新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第366号	会報
(公社) 日本山岳会	「山」2024年 (令和６年) ５月号　No.948	会報
ベルニナ山岳会	「ベルニナ」75・76合併号	会報

IFSC General Assembly 2024 in Santiago/Chilly

【Opening Address/IFSC President, MARCO SCOLARIS】

2023年は、IFSCにとっても、大変厳しい一年であった。LA五輪でのパラクライミングの決定は、延期に次ぐ延期で未だ回答が得られていない。IPC（国際パラリンピック委員会）は、コンセンサスと揺るぎない基盤に立って、できるだけ早く動いている。我々コミュニティーの皆が、最近実行に移されたポリシーの範囲を理解していると思うが、このポリシーは、アスリートを守ることを目的としている。我々が今とっている行動は、あらゆるものを犠牲にして勝利ばかり追求するというカルチャーには逆行していると言える（そこのところは理解してほしい）。

我々クライマーは先駆者であり、そのため代償を払わなければならないかもしれない。これからは我々の環境や自分達だけの世界から視点を広げていきたい。2023年にスポーツの世界でクライミングの地位は確立されたものの、世界に目を向けると、2023年には2022年よりも人々が一層血を流す結果となっている。

武力紛争は、これまで以上に激化し、破壊や移動が強制的に引き起こされている。世界中で、武力紛争が増え、地球における人類の生存状況が悪化している。サステナビリティーは人間の生活の営みや活動でより中心的な位置を占めるようになっている。現在の武力紛争は、ウクライナと中東の二つの紛争が最も目立つ悲劇となっている。

ロシアの侵攻後、ウクライナでの戦争は未だ終わっていない。ハマスによる虐殺で、罪のない人々が犠牲になったが、それに続いてガザ地区では、何千人もの罪のない人々が命を失った。これらの悲劇を前にして、スポーツクライミングはどういう立場をとっているのだろうか？我々ができることは、どう共生していけるのかを見せることである。

スポーツは、平和に競技するために、人々を一同に集めて、多様性の中で互いを尊重し、高め合うことができるようにすることである。インクルージョン（含める）とは、単なる言葉ではない。日々の現実に達成し得ることを指しており、社会におけるスポーツの役割を定義し、守っていくことが我々の最大のチャレンジである。

我々のビジョンは、スポーツクライミングを通して世界をより良い場所にしていこうとすることだが、これは単に空っぽの言葉ではないのだ。アスリートのマネージャーとして、人間の仲間として、日々我々が行うこと全てにおいて、より良い場所に導いていこうとするのが我々の目標である。2024年パリオリンピックにおいて、２回目のオリンピック出場が近づいてきているが、我々は2028年のロスオリンピックにも目を馳せ（はせ）、このビジョンを消して失わないようにしよう。

私達は一緒に変化をもたらしていける。結論に入る前に、オリンピックの将来をたどり、すでに受け取ったかもしれない情報、または新しい情報を共有しよう。我々スポーツクライミングは2021年に延期された2020東京オリンピックで新しく種目に加わった。

賑わいをみせるサンチアゴ市街

我々は地域のスポーツである。定義が変わっても結果は同じ。追加されたスポーツはフルプログラムのスポーツではない。我々は今もＩＯＣと共に、オリンピックにもっと参加できる可能性を見極めようとしている。ロサンゼルスでは、まだメダルの個数やアスリートの参加数は正確にはわからない。来年夏前には最終的に決定される。パリでの我々のパフォーマンスがまず評価される。我々は交渉はするつもりだが、妥協することなく、我々の望むものを達成したいと考えている。

３つの競技、３つのメダル、そして競技ごとに妥当な選手の数を望んでいる。それから2028年にはパラリンピック競技種目に参加できるようにしたい。これに関する情報は非常に遅れている。現時点でどのような状況にいるかであるが、2028年ロスオリンピックに向けて最終的な案が今年５月には提示されるだろう。また６月には国際パラリンピック委員会の最終的な決定が下されるだろう。

これが数週間前に我々が受け取った情報である。パンアメリカンの友人達からいい知らせがある。スポーツクライミングは2027年ペルーのリマで開催されるパンアメリカンの種目になる予定である。

【IFSC大会（イベント）参加費の値上げについて説明】

1. 2025年－2028にかけて向こう４年間のIFSC主催（及び共催）の大会（イベント）スケジュールが改めて公表されました。
2. 2021年－2024年の４年間における、IFSCのスポーツ界におけるステータスの確認がなされました。
3. 2025年－2028年の４年間は、各NFに対し、更なるチャンスとイベントモデルの充実と向上を目指さねばならない事への理解が求められました。
4. イベント参加費の値上げについて説明があり、出場選手が少ないNF、WC未開催のNFから、今回も強い反発がありました。
5. IFSC 世界ランキング制度についての説明とそれに合わせた開発中イベントについて、予告がありました。
6. 新たなる規律改善を進めていくことについての、予告がありました。

【IFSC大会（イベント）参加費の値上げについての議決】

1. IFSC大会参加料は、テクニカル面のコストを全てカ

バーする必要があります。

2. 2019年以来、大会参加費は変わっていないが、昨今のコストの増加、サービスの質的向上、加えてテクニカル分析の中には動画製作費用は含まれていないので、予算を圧迫しかねないのです。
3. IFSCの大会コストと財政的持続可能性をクロスチェックするための内部分析が必要不可欠と考えます。
4. IFSCのワールドカップ開催における平均経費（公式医療機関への委託費、健康状態のスクリーニング、クラシフィケーション、メディア対応、イベントスタッフ管理、データーマネージメントのサポート、アンチドーピング、SDGs）は、2024年には€38,000と推定します（2023年は€35,000だった）。加えて、各開催NFに課するサービスフィーは、平均€23,000となっています。
5. IFSCは、ワールドカップ一大会開催ごとに、2023年は€12,000、2024年には€15,000の事業損失を計上していることも考慮いただき、以下のようにSFの値上げを提案したいと考えております。ご理解頂きたい。

（単位：€）	2025年開催のWC	2024年開催のWC
WC SPEED	16,000	14,500
WC Boulder	28,000	25,500
WC Lead	28,000	25,500
WC B&S	30,000	25,500
WC L&S	30,000	25,500
WC B&L	35,000	32,000
WC B,L&S	40,000	36,000
WC Para	28,000	SD

（表1）

6. IFSCのイベントスケジュール（2025～2028年）の発表がありました。

【ユース世界選手権と年齢カテゴリーの改定について】

スポーツクライミングは、「人間」「地球」「事業収益」の共存を目指し、それこそが持続可能な大会（イベント）の継続を生むのです。

1. サステイナビリティーは、IFSCの財務面における正しいアプローチに関係しているのです。
2. スポーツ分野では、全てのステイクホールダーズ（選手、大会組織委員会、IFSC、各NF等）がより多くのリソースから恩恵を受けることが出来るのです。
3. IFSCは、より広範囲の世界的なエクスポージャー（放送メディアとの契約）を目指す必要があります。
4. テクニカル・サポート（ITアウトソーシング＋スタッフ）においては、さらなる専門性や各専門チームにおいてプロ意識の向上が求められています。
5. 医科学、ドーピング問題など、我々の選手に対するサービスの更なる充実が求められています。
6. 国際的なスター（アスリート）の存在を確立するため、そのインセンティブ（オリンピック出場資格）との関連性が、さらに強まってきています。

【Youth Categoryの発展に対する戦略】

IFSCは、世界ランキング創設構想について検討している。

1. ATPランキングコンセプトを基本に検討します。
2. 期間に応じたランキング（12ヶ月）によって、現在の世界ランキングを提供します。
3. 全てのIFSC大会（イベント）において、選手はポイントを得ることが出来ます。
4. IFSC大会（イベント）は異なるカテゴリーに分類され、それぞれの必要条件を伴います。

【エリート大会の発展に対する戦略】

1. 魅力的なIFSCによるエリート大会を創り、メディア、協賛企業に売り込みます。
2. 選手がより良い恩恵を受けられるよう改善（賞金、祭典、ランキングのポイント）します。
3. チャレンジしてくれるイベント・オーガナイザーを表彰します。
4. IFSC内で、露出、可視性をさらに向上させます。

【ユース世界選手権と年齢カテゴリーの改定理由】

1. プロのスポーツ参加の平均年齢を上げる効果を狙うため。
2. 選手生命（キャリア）の延命と選手の将来的な健康を考慮するため。
3. 低い年齢の選手に対する国際的なプレッシャーと、高いパフォーマンス・トレーニングによる悪影響を避けるため。
4. 例えば、RED-S（Relative Energy Deficiency in Sport）など、潜在的な健康問題を防ぐため。
5. ユースの選手は国単位の代表として参加するという可能性が高いため。
6. 現に2023年ベルン世界選手権の登録選手の37％が21歳以下であったという事実があります。

現在	年齢	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳
	シニア	NO	NO	YES	YES	YES	YES	YES
	ユース	16歳未満／YB		18歳未満／YA		20歳未満／JR		NO
2025年	年齢	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	
	シニア	NO	NO	YES	YES	YES	YES	
	ユース	17歳未満／YB		19歳未満／YA		21歳未満／JR		

（表2）

【年齢カテゴリー移行の概要】

2025年以降、IFSCとしては、年齢カテゴリーと年齢枠を揃えます。

2024年開催大会	16歳未満		18歳未満		20歳未満	
	2010	2009	2008	2007	2006	2005
2025年開催大会	17歳未満		19歳未満		21歳未満	
	2010	2009	2008	2007	2006	2005

（表3）

過去とコンセプトを一致させます。

1. 2学年（14歳、20歳）のユースカテゴリー
2. 移行期間中、21歳未満選手（2025年）はユース枠とシニア枠に出場資格があります。
3. 21歳以上の選手はシニアのみの競技に出場資格があります。
4. IFSC公式HPをご参照ください。

【ユース世界選手権の変わらぬチャレンジ】

1. イベント・オーガナイザーにとって、IFSCのユース選手権の要件（リクワイアメント）は非常に厳しい（IFSC世界選手権の3倍の要件）のです。
2. 大会コストをカバーしようとして、メディアに放映権を販売する機会、イベント開催パートナーのインセンティブも限られており、その結果、収益源は限られています

（日本国内に於いても、ユース大会は自前のYouTube配信；決勝でさえやっとで、メディアの取材は、地元紙、地元放送を除いてほゞゼロ）。

3. ホスト国のNFにそのインセンティブをアピール、NFが興味を引くような、持続可能な大会（イベント）のフォーマットを提案するのはIFSCの責任で行うべきではないでしょうか。
4. 2020～2024年のIFSCユース大会においても、イベント・オーガナイザー（NF）から自発的な立候補国はありません。献身的なワーキング・グループと負担を軽減するべきです。ホスト（NF）を見つけるために異なるフォーマットを適用するためにIFSC総会の承認が必要です。以上の問題を解決するため、IFSCスポーツイベント委員会に解決策の提案を委ねてまいります。

【IFSC 理事会におけるコース問題事前承認事項】

1. IFSCユース世界選手権から一つの年齢カテゴリーを削除します（表2）。
2. この決定を、このサンティアゴ総会での「新年齢カテゴリー」の決定に連携させることが重要なのです。
3. 将来のユース世界選手権については、各大陸ごとにそのノルマの必要性を認識する必要があります。
4. 収益源を増やし、ユース世界選手権に投資してくれるパートナーを集めるように働きかけましょう。

【IFSCユース・イベント変更計画において却下したオプション】

1. 競技種目ごとにユース世界選手権を分けて行う案は、却下された。理由は、「選手移動負担」、「カレンダーがタイト化」、「クライミング三種目大会の見せ方の施策」の負担増が懸念されました。
2. ２つの年齢カテゴリーだけにする（1クラス3学年ずつ）ことは、却下されました。
3. 三種目のうち1ラウンド大会減にしても、IFSCユース・イベント問題の解決への影響が少ないと判断されました。

現在	年齢	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳
	シニア	NO	NO	YES	YES	YES	YES	YES
	YWCH	16歳未満／YB		18歳未満／YA		20歳未満／JR		NO
2025年	年齢	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳
	シニア	NO	NO	NO	YES	YES	YES	YES
	YWCH	NO	17歳未満／YB		19歳未満／YA		NO	NO

（表4）

【ユース世界選手権の変わらぬチャレンジ：理事会議論の結論】

1. 現行のユース世界選手権から、最高年齢（19歳）と最少年齢（14歳）を、変更します（表3）。
2. 「2023年GA（当総会）」での投票決議：ユース選手にとってのリスク（RED-S＝Relative Energy Deficiency in Sport、国際的なプレッシャー、各国NFが若年齢層から投資する）を最小限にするためです。
3. 「19歳、20歳カテゴリー選手」は、2年前からシニアIFSC基準で、競技に出場できる可能性が出ます（表4）。
4. 現在の成長している既存の国際大会に代わるジュニア・イベント・シリーズを、模索していくべきでしょう。

【Risk & Finance Commission の報告】

1. 各大陸（コンチネンタル）委員会に権限を委譲してきました。
2. 署名権限（共同署名）を各大陸委員会の会長/理事会メンバーに譲渡することにいたしました。
3. 以上の重要事項を、2024年1月の理事会において承認されました。
4. 財務規則（Financial Regulation）の改定を発表。義務遂行において理事会メンバーのコミットメントが常に（強く厳しいものが要求されている）増えていることから、2024年からIFSC理事会メンバー（Borad Member）の報酬を見直すよう勧告します（President:€60,000、VP及びTreasurer:€15,000、全理事会メンバー：€200）。
5. 監査法人による2023年12月期のPL,BSの監査報告が詳細になされました。その中で、2023年8月度理事会において、2023年度赤字予算における第2四半期の補正予算を承認しました。
   ①IFSCの可視性とポジショニングへの投資。
   ②2020－21年のCOVID-19パンデミックによるイベント機会の一部喪失を埋め合わせるため、電通との契約を再交渉しました。
   ③結果、2023年度は約€230,000の事業損失を計上いたしました。
6. 2024年度の暫定予算について説明がありました。
   ①大陸委員会の2024年度予想を含む暫定予算作成します。
   ②2024年パリオリンピックの準備と実施に向けてフォーカスしていきます
   ③全体で€159,000の事業利益が見込まれます。

【PROFIT & LOSS；経営実績】

協会運営費用についての監査手続き報告は以下のように進められました。

1. 2023年度中に発生した主要なコストと費用の詳細テスト及び根拠資料（内部承認、請求書/領収書、契約書並びに通信）の監査。
2. 前年度と比較して大幅な変化の根拠の合理性を理解するために主要なコストと費用の分析を実施しました。
3. 経費の還付プロセス及び会計方針を理解し、経費還付のサンプルの裏付けとなる分類が固有のものであり、前述の会計方針と一致しているか精査しました。
4. 2024年度の最初の数ヶ月に発生した取引のサンプル（抽出項目）のカットオフ・テストを実施しました。
5. IOCの指定資金と寄付に関して、発生費用と受領した寄付の間の一貫性を検証しました。
6. 電通とEurosport（ユーロスポーツ）の契約を分析した。スポンサー・シップ、放映権料並びにカレンダー・フィーに言及している。1年間に受け取ったスポンサー・シップ登録料が含まれています。
7. 年度末に発生する主要な取引について、幾つかの手続きを実施して、コミッション収益の正確性を検証しました。また、主要な寄付金に関しては他の分析も実施しました。これは前年度との寄付金比較で、スポンサー及び寄付金協力者の大きな変化、金額変更の背後にある論理的根拠、またその妥当性を理解するために実施しました。

8. IOCとのコミュニケーションによる、請求書、経費報告書、前述の現金収集の確認に関しても、詳細な分析を実施しました。
9. 一方で、協会運営コストについては、サンプルテストで詳細な調査も実施した。内部文書に関するポリシー、請求書、契約書などの調査文書を精査しました。
10. 2023年PL前期から後期への主要な変化を分析した結果、協賛協力企業や各NFのポリシーも理解しました。特にコスト面の完全性を検証するために、各社から補足文書を受け取りました。
11. 収支分析の複雑さについて、昨年12月から2024年1月まで、複数の収支項目検証を実施した。
12. Native Fundの寄付に関しても、受け取った寄付に関連する費用の性質の継続性を検証しました。

以上、実施した会計監査手続きに基づいて、問題は見られなかった。

【B/S；財政状態】

協会の総資産・負債についての監査手続き報告は以下のように進められました。

使途指定資金及び協会運営資金について

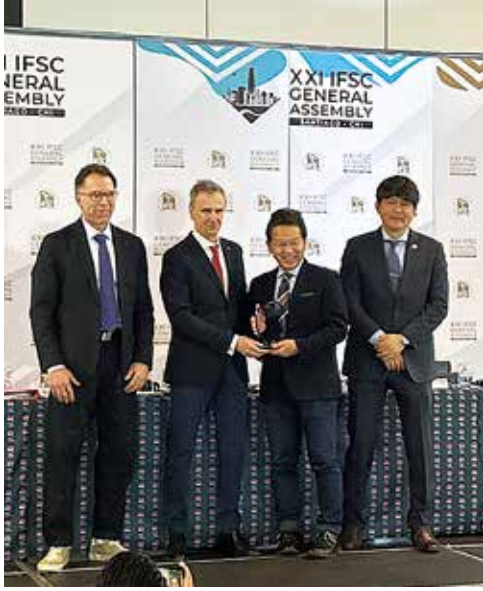
1. 特に無形資産、非流動資産と有形固定資産の分析を行なった。主に、処分資産や1年間に受け取った各種契約、請求書について精査しました。
2. 2023年度に発生した主要な債務の計上及び流動資産の利用の分析並びに仔細内容の追跡を実行しました。
3. 「資金」の預金口座の分類が適正にスイス会計基準に準拠しているかを検証しました。

非流動負債について

1. 2023年12月31日時点の外部銀行残高の確認手続きを実施しました。また、企業から受け取った請求金額の正確性を検証するために、同日付け銀行預金取引確認書を受け取り、流動資産についてカットオフ手続きを行ないました。
2. 売掛金勘定に関して、関連銀行全てから外部確認書を受け取りました。

流動負債について

1. 買掛金の内容は、主に2024年当初数ヶ月に発生した取引のサンプルのカットオフ・テストです。
2. 期間別分析については、先ず前受収益の発生があり、前受収益勘定の完全性を検証するために主な収益取引のカットオフ・テストを実施しました。
3. 売掛金勘定の売掛金年齢（エイジング）の分析を実施しました。これは不良債権引当金の妥当性を確認するためで、1月1日付けで存在するクレジットノートを分析した。当勘定では、資産側、負債側の引当金には問題がなかったと判断しました。
4. リスク引当金 については、2023年12月31日時点における同引当金の合理性を確認するため、IFSCマネージメントに直接質問した。コーン・フェリー（Korn Ferry）への投資収益の通貨変動リスクであります。これは、収益側の勘定が完全であることを検証するためです。リスクのための引当金に関して、マネージメントに対し、明らかに納得のいくレベルの引当金を支援してくれるよう問い合わせた。その結果、同引当金のために評価したリスクの一貫性と正確性を検証するために、第三者機関であるKellerhals法律事務所から入手した文書の外部確認手続き実施した報告基づいて、問題は見られませんでした。
5. 貸借対照表（B/S）については、無形資産、非流動資産と有形固定資産の分析を行なった。



日本の国際化への期待はますます高まる

投稿では、2024年3月23－25日、Santiagoで開催されたIFSC Genera Assembly（年次総会）における主要議題のうち「IFSC会長MARCO SCOLARIS氏開会挨拶」、「IFSC大会（イベント）に於けるNF参加費の値上げ」、「ユースカテゴリー制度の変更」、「リスク及びファイナンス委員会の報告」のセッションのみを抜粋し、小職の抄訳による和文にて報告いたします。従って、総会決議内容は、全てIFSC公式HP掲載の内容が優先します。

（JMSCA　丸　誠一郎）

JMSCA

令和５年度 第18回
ハイブリッド理事会報告

○**日　時**：令和６年３月20日（水）
20：00―22：10
○**場　所**：Web会議
○**出席者**：丸会長、蛭田・飛松・吉田・山本各副会長、小野寺専務理事、古賀・町田・望月・濱田・安井・栗田・赤尾常務理事、佐藤・前田・野村・小髙・中橋・山口・水村・島田・西谷・畑中・樋口・中島・小田部・各理事、以上27名。古屋、佐久間各監事、以上２名
○**欠　席**：小日向・杉本理事

１．開　会

２．丸会長挨拶

４ブロックを回り、基金のお願いをし、岳連の皆さんのご理解が得られたと思うが、現在でも、債務超過状態であり、決算まで時間がないということになると、最大限の緊急避難的な対策を考えていくべきと私は考えており、それについて話をしたい。

３．会議成立状況報告

理事数：開始時29名中27名出席。
監事数：２名中２名出席（定款第33条、定足数＝15名（１／２以上））

４．議長選出

丸会長が議長を務める。（定款第32条）

５．議事録署名人

会長及び監事（定款第34条）

６．議　題（注. 審議順に記載）

丸会長からの問題提起について

１．現在、短期流動資金を確保するために１億３,000万円の短期資金が投入されているが、債務超過となったときに以下のリスクが予想される。
―みずほ銀行からの融資が滞ること。
―ＪＯＣ，ＪＳＣからの概算払いを得ることができない。
―資金確保ができないときに、パリに選手を送れないことが考えられる。

2．上記説明に対して、質疑応答と、意見が出たのちに、次の対応を取ることになった。
—みずほ銀行に対して、現行ＪＭＳＣＡの財務状況の状況説明をし、令和６年度以降も継続した借入が可能かの確認する：対応者　丸会長、小野寺専務理事、（必要に応じて赤尾事務局長）訪問日：丸会長の帰国日程による。
3．債務超過を防ぐために、共済会に３月に入った資金のうち、1,000万円を基金として供出する案が提案されたが、採決の結果、以下のように反対多数で否決された。
賛成：２名（丸会長、樋口理事）、反対：18名（蛭田・山本・飛松副会長、小野寺専務理事、古賀・町田・望月・栗田常務理事、小高・小田部・島田・中島・中橋・野村・畑中・平田・水村・山口理事）、棄権：７名（吉田副会長、安井・濱田常務理事、赤尾事務局長、佐藤・西谷・前田理事）
（主な反対意見）
—前期縮小した登山部の事業の更なる縮小を強要するもので、岳連やＰＴにとって到底受け入れられない。
—前理事会で承認された令和６年度の予算案を反故にするものである。
—小手先の対応を行うと、新年度でもその対応の埋め合わせをするために、他の弊害が発生する。
—中長期的な再建計画に力を注ぐべきではないか。
4．財政再建委員会のメンバーと打ち合わせについて
リーダーである吉田副会長が、当委員会のメンバーとして以下のメンバーによる打ち合わせ会議（Zoom）の提案をし、初回：３月26日19時30分から行うことになった。
（メンバー）
小野寺専務理事、古賀登山部長、町田ＳＣ部長、濱田常務理事、望月常務理事、安井常務理事、赤尾事務局長、小田部理事、佐藤理事、百瀬委員長。
前述１のみずほ銀行に状況説明と今後のお願いをする際（３月29日を予定）に持っていけるラフな財政再建案ができれば、なお良い。

5．その他
●岳連からは、財政再建に関する計画の進捗状況に、大きな関心が寄せられているので、早急に提案できるように進める。
●JMSCA責任者が辞任すれば基金を出すといっている岳連があること、それも債務超過状況を回避する一手段として提示されたが、採決には至らなかった。
●財政再建案（丸会長提案）に対しての意見。
—常勤役員２名を１名にすることは非現実的。
—中堅職員３名が退職した事務局の体制の立て直しが急務。
—その他については、財政再建委員会の中で検討していく。
—会長、副会長、専務理事を含めた上位３役のコミュニケーションが不足している。情報の共有や、常務理事会、理事会の進め方を含め，早急に改善してほしいとの意見がでた。

以　上
令和６年３月14日　　記録　赤尾　浩一

JMSCA 令和５年度 第19回 ハイブリッド理事会報告

○**日　時**：令和６年３月28日（木）
19：00－20：50
○**場　所**：Web会議
○**出席者**：丸会長（途中から参加）、蛭田・飛松・吉田・山本（途中から参加）各副会長、小野寺専務理事（途中から参加）、古賀・町田・望月・濱田（途中から参加）・栗田・赤尾常務理事、佐藤・野村・小高・中橋・水村（途中から参加）・畑中・樋口・中島・小田部各理事、以上21名。古屋、佐久間各監事、以上２名
○**欠　席**：安井常務理事・小日向・島田・杉本・西谷・平田・前田・山口理事

1．開　会
2．会議成立状況報告
理事数：開始時24名中13名出席、
監事数：２名中２名出席（定款第33条、定足数＝13名（１／２以上））
3．議長選出
蛭田副会長が議長を務める。（定款第32条）
4．議事録署名人
副会長及び監事（定款第34条）
5．報　告（注．審議順に記載）
議案第１号　蛭田副会長が、利害関係人６名と話した状況の報告と、今後の進め方について協議した。
議案第２号　丸会長辞任に伴う対応について
丸会長が、辞任を表明した前後の経緯を確認するとともに、本意を確認した。その後、以下の質疑応答と、意見が出された。
現在の財務状況について
●３/28時点で、基金が約3,000万円弱集まっているが、まだ、1,000－1,300万円足りない状況
●ＢＪＣ関係は、支出は、300－500万円マイナスとなる。
一部岳連との話し合いの状況について
●２月の時、財政再建案の提示が明瞭になれば、基金拠出が可能な旨打診されている。
●上記以外の対応についても、岳連理事会への参加と説明をもとめられたが、従来と同様の返答になるため、参加を見合わす旨専務理事から伝達した。
財政再建について
●財政再建計画をできるだけ早く、しっかり作成することが重要で、そのための体制づくりを早急に進める必要がある。
辞任の伝達経緯について
●ＳＣ関係者に辞任をアナウンスしたとのことだが、その経緯はどうなっているのかという質問に対して、現状について早めにアナウンスしたの返答だった。
●丸会長辞任の情報が、理事会ではなく外部（JMSCAの委員会やＳＣ関係部署）からはいってきたが、最初に理事会で報告をすべきで、その手続きを経ずに、外部から聞かされるのは、ガバナンスが効いていない状況。
●辞任の伝え方（限られた人や、委員会のみ）や、タイミングが適切でなく、拙ない。辞任表明したらどういう影響が出るか配慮したうえで対応して欲しい。コンプライアンス上大きな問題である。

以　上
令和６年３月28日　　記録　赤尾　浩一

JMSCA 令和６年度 第１回 ハイブリッド理事会報告

○**日　時**：令和６年４月11日（木）
14：00—16：50
○**場　所**：ＪＳＯＳビル３Ｆ会議室１とWebのハイブリッド会議
○**出席者**：丸会長、蛭田・飛松・吉田各副会長、小野寺専務理事、古賀・赤尾・望月・栗田濱田常務理事、佐藤・前田・野村・小高・中橋・山口（途中離席）・島田・西谷・畑中・平田・中島・小田部各理事、以上22名。古屋・佐久間各監事、以上２名
○**欠　席**：町田・安井常務理事、樋口・杉本理事
1．開　会
2．丸会長挨拶
現在、善管注意義務違反ということで指摘されている中、理事会に参加することが不適切ではとも考えたが、代理人である萩原弁護士のアドバイスにより、議事によって参加してもよいとのことで、短期借入保証人でもあり、５月末までは、代表理事として務めることになった。皆さんのご理解を得ながら進めたい。
3．会議成立状況報告
理事数；開始時26名中22名出席、
監事数；２名中２名出席（定款第33条、定足数＝14名（１／２以上））
4．議長選出
丸会長が最初は議長を務める。（定款第32条）
5．議事録署名人
会長及び監事（定款第34条）
6．議　題（注．審議順に記載）
議案第１号　議事録の承認について
令和５年度第16,17,18回理事会議事録、全国理事長会議議事録の承認について（事前送付済）、異議なく承認された。第２号以

下は、蛭田副会長が議長となった。

議案第２号　臨時総会について

丸会長の辞任について

５月31日まで会長は努めるが、６月の定期総会で理事も辞任としたいという内容の文書が、４月８日に萩原弁護士宛伝達された。そこで、丸会長の真意、今後の対応を確認したいと議長がのべた。

丸会長が以下のように説明した。

蛭田副会長、山本副会長と協力して、複数ブロックに基金協力を依頼した。

３月20日の理事会の結果を受けて、債務超過の可能性があるとのことで更なる対応を検討した。３月29日に、基金の必要性を訴え、なんとかご協力いただけないかを依頼し、それを受けて、４月２日に着金を確認した。

辞任の時期は、和解に向けて協議していること、協賛企業との契約の確定等いくつか行事もあり、６月23日予定の定期総会での理事辞任が最も良いと考えた。発表は、本日のメディア（ＰＭ５：00から開始予定）との情報伝達の場でおこないたい。

その後、以下のような意見がでた。

―新しい会長が決まっていないと、発表できないのではないか。

―会長未定なら、会長代行（筆頭副会長）が執行するということでどうか。

―５月９日の理事会で新会長を決めるということにしてほしい。決まれば、会長代行が出る必要はない。

―後手を踏んで周りからうわさがでるより、早めに発表をする方がよい。

―理事会として、はっきり態度を決めたほうがよい。

―蛭田副会長も同席の上でメディアに発表してはどうか。

―４月14日総会の時には正会員にも発表する。

―この時に、理事交代の動議が出る可能性があるのではないか。

―正会員には、本日、会長辞任の旨伝達してほしい。

―臨時総会は、最初は丸会長が議長となり、議長交代の動議を出し蛭田副会長を議長の提案をする。

財政再建骨子案について

当日は、12：30ぐらいから、財政再建骨子案の説明を吉田副会長が対応する。当日は、吉田副会長が、配布資料を基に説明し、望月常務理事が補足する。今後、４月14日に臨時総会で説明、正会員から意見を募集し、５月理事会で骨子として確定する。再建策の土台として、今後の方針や目標を合意していただく必要がある。７月から財政再建委員会が稼働する。

２回目の基金募集をするかは、令和５年度の決算状況を確認した上で、 対応を検討する。

臨時総会時の数値目標については、濱田常務理事がまとめる。

ＳＣ関係は、町田ＳＣ部長（競技は百瀬委員長）が対応する。

以上の協議のち、当日説明する内容と配布資料について採決を取り、異議なく承認された。

賛成：22名、反対：０名、棄権：０名

議案第３号　生涯スポーツ功労者表彰者について

小野寺専務理事が配布資料を基に説明した。対象者の選考基準が高いので、JMSCAからは候補者を出すことは難しい。

議案第４号　ＳＣ競技規則の改定について

中島理事が配布資料を基に説明した。選手が競技中に受傷した際には新ルールでは医療関係者が競技継続の可否を判断するとなっている。ジャパンツアーでは、医療関係者は医師ではなくアスレチックトレーナー、看護士であることもあり、競技継続の判断が難しいことも想定される。この点について医科学委員会の意見をまとめて技術委員会の羽鎌田委員に相談した。この結果、医療関係者が選手の競技継続の可否の判断に迷った際には審判長に相談することは可能である。しかし、最終的には医療関係者が判断することになった。

提案された文面について、異議なく承認された。

議案第６号　安全登山のための登山道を考えるシンポジウム共催について

古賀登山部長が配布資料を基に説明し、異議なく承認された。

議案第７号　2024スポーツクライミング国際競技大会ユース日本代表選手選考基準（ボルダー・リード）について

西谷理事が配布資料を基に説明し、異議なく承認された。

議案第９号　利益相反ポリシー、危機管理規程について

山口理事が説明し、前回の理事会で、指摘された点を変更することで再提案を行った。

―公益財団法人になっているので、社団への変更が必要。

―ポリシーとあるが、規程にする。

しかし、ポリシーのままでよいのではないかということになり、“利益相反ポリシー”のままということで、異議なく承認された。

“危機管理規程”についても異議なく承認された。

議案第８号　正会員入会について

配布資料を基に、小野寺専務理事が説明したが、“JMSCAの目的に賛同”という点で疑義があり、交渉中であることから現時点では保留という提案がされ、異議なく承認された。

また、現正会員の辞任についても、撤回ということでよいか確認することになった。

７．報　告

議案第１号　月次報告、キャッシュフロー

赤尾事務局長が最新の予算管理表を基に説明し、基金収集状況と、今後の収益見込み（最終的には５月に決定）から、債務超過は免れる模様であることを説明した。

（議案第２号から第10号までの報告議案は、常務理事会で承認されているので、小野寺専務理事が、各自読むように伝達した。）

８．その他

４月14日で使用する資料は、財政再建骨子案を配布（未定稿を消して）する。理事等の責任の明確化については、今回は配布せず、口頭で説明する。

以　上

令和６年４月11日　　記録　赤尾　浩一

アジア山岳連盟（UAAA）創立30周年記念事業

「国際山岳平和祭 in 長岡2024」
式典、祝賀会参加者募集のお知らせ

創立30周年を祝いJMSCA加盟団体会員の参加をお願いします。

日程：2024年７月26日（金）　15:00開始、式典・祝賀会
会場：ホテルニューオータニ長岡（上越新幹線長岡駅前）
会費：8,000円（消費税込み）
主催：アジア山岳連盟およびアジア山岳連盟日本委員会
主管：（公社）日本山岳・スポーツクライミング協会、新潟県山岳協会
協力：（公社）日本山岳会、（公社）日本山岳会越後支部、日本勤労者山岳連盟
　　日本山岳ガイド協会、日本ヒマラヤ協会、弥彦山岳会
後援：新潟県、長岡市、弥彦村

― テーマ ―

平和への登り口
自然を大切にしよう
仲間を大切にしよう
生命を大切にしよう

お申込み：JMSCA HPよりお申込みください。

かすみちゃんのハイキング日記」

表紙のことば

飯豊連峰は新潟県、山形県、福島県の三県に跨っている。南の三国岳から北西に伸びる飯豊連峰の北端が杁差岳である。日本海から約30ｋｍのこの山域は、冬期は日本海からの北西風により多量の雪が降る。西側の新潟県側は吹きさらしのため多くは溜まらないが、東側の山形県側は多量の積雪となる。

春には雪解けを追いかけるように花々が咲く。ハクサンイチゲの大群落を始め、コイワカガミ、ハクサンチドリ、ハクサンコザクラ、シラネアオイなどが競うように咲き誇る。

編集後記

夏が近づいています。夏と言えば山登りですね。山岳会に入会しなくても山に登る事は出来ますが、他の人を山に連れて行く事はありませんか？ 安全に登山を楽しむために必要な知識を身につける事が出来るのが「夏山リーダー」です。また、夏山リーダーのステップアップとして、UIAA公認の上級夏山リーダー資格もあります。知識がある方でも、アップデートを兼ねて挑戦してみるのはいかがでしょうか？ 頼りになるリーダーを目指して、山を楽しんでください！ https://www.jma-sangaku.or.jp/sangaku/leader/

（松本光顕）

登山月報　第 663 号

定　価　110 円（送料別）
予約年間　1,300 円（送料共）
（毎月 1 回 15 日発行）
発行日　令和 6 年 6 月15日
発行者　東京都新宿区霞ヶ丘町 4 番 2 号
Japan Sport Olympic Square 807
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会
電　話　03－5843－1631
ＦＡＸ　03－5843－1635

［山岳雑誌］山と人、時代をつなぐ 岳人 7月号

特別編集 夏山 2024
国立公園・国定公園の山

モンベルのウェブサイト、全国のモンベルストアや書店にて発売中！

価格1,200円（税込）

▶年間購読が断然おトク！

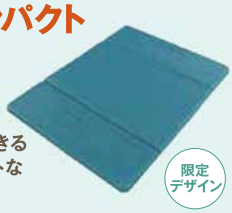
年間購読通常特典　購読割引　送料無料　限定品プレゼント

さらに モンベルクラブ会員さまには モンベルポイント 5,000P プレゼント！

モンベルクラブ会員さまで現在購読中の方は、次回継続時に5,000Pをプレゼントします。

年間購読特典

岳人コンパクトフォームパッド



手軽に携行できる軽量コンパクトなパッドです。

限定デザイン

岳人カード

全国2,000ヵ所以上でご優待！

全国の温泉や山小屋など提携施設でさまざまなご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから！
https://www.gakujin.jp/

全国のモンベルストアでも受付中！

お問い合わせ モンベルポスト

フリーコール 0120-982-682／TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs（Sustainable Development Goals）とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境

関連する主なSDGs	主な取組
12 13 14 15	・再生可能エネルギーの普及支援 ・自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング

安心して暮らせる社会

関連する主なSDGs	主な取組
1 2 3 4 5 6	・健康づくりの支援 ・先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応

活力のある経済活動

関連する主なSDGs	主な取組
7 8 9 10 11	・次世代モビリティ社会への対応（自動運転車等） ・災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会※をめざします。

※外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会

日山協山岳共済会のご案内

安全登山は登山者の努め、山岳保険は義務。

ご自身のために、ご家族のために。

日山協山岳共済会とは、

日山協山岳共済会とは公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会（JMSCA）とアライアンスを組み、安全登山の指導・普及を図り、山や自然が好きな人たちのための互助と自立を目指す仲間の集まりです。山岳共済会は、日本の山岳遭難・捜索保険の草分けで、5万人の会員を持つ最大級の山岳共済です。年齢・既往症に関係なくどなたでも入会できます。

2022年 山岳遭難の概況

警察庁生活安全局生活安全企画課
（ 2023年6月9日 ）

発生件数	3,015件（前年対比 380件増）
遭難者数	3,508人（前年対比 431人増）
死者・行方不明者	327人（前年対比 44人増）

JMSCA

2024年版
日山協山岳共済会のしおり

WEBからもお申込みいただけます（ www.sangakukyousai.jp ）